



◀ 全国へ戻る

◀ 前のツアー

次のツアー ▶

2024年10月10日

ゆっくりと確かな信頼関係を育む、みんなの居場所

「公開ワークショップ 話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？子ども食堂で起きていること」in 神奈川 開催レポート

全国47都道府県で実施している「公開ワークショップ 話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？子ども食堂で起きていること」。18回目の開催地は神奈川県。2024年7月28日、神奈川県子ども食堂・地域食堂ネットワークの主催により、おだわら市民交流センターUMECOにて開催されました。神奈川県の子どもの食堂数は486カ所。神奈川県は都市部から郊外まで、多様性に富んでいます。神奈川県子ども食堂・地域食堂ネットワーク山崎由恵さんから、今回は横のつながりを更に深めたいと特に県西エリアの方を対象に実施したとのご挨拶をいただき、ワークショップが始まりました。

登壇者の方から印象的なエピソードを伺った後に、グループに分かれて食堂実践者の方それぞれのエピソードを共有したり、子ども食堂が果たす役割や価値を語り合いました。



自然な関わり合いが生まれる場所、それが子ども食堂

本ツアーで実施するワークショップでは、子ども食堂の運営者のみなさんに、1人ずつ「やっていてよかったと感じるエピソード」「忘れられないエピソード」を伺っています。どのエピソードも、ハツとさせられたり、心温まったりするものばかり。エピソードの一端をご紹介します。

子どもの声に耳を傾ける大切さ

NPO法人未来経験プロジェクト・朝ごはん子ども食堂（平塚市）堤園子さん：ある男の子の近くに座ってご飯を食べようとしたら、その子が固まってしまっってご飯を食べられなくなったことがありました。その子にとって、大人は安心できる存在ではなかったのですね。良かれと思ってやったことでしたが、それは大人の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。

の側だけの思いだったのだと気づかされました。以来、挨拶しても返事をしてくれず、ようやく返事をしてくれたのは半年後。それから少しずつ距離を縮め、今では時々連絡をくれる仲になりました。気づけば、10年来の付き合いです。振り返ってみると、大人に安心感を持ってない子が来てくれたこと自体が奇跡のようだと思います。拒絶はされましたが、意思表示ができることは子どもにとって大切なこと。子ども食堂にはいろいろな大人がいて、一人ひとり接し方が違う。積極的に話しかける人もいれば、そっと見守っているタイプの人もいますよね。子どもが自分で距離感を選べるからこそ、来続けてくれたのかもしれない。自分が何をしたいかではなく、子どもたちがどうしたいのかをまず聞くこと。その大切さを学んだ出来事でした。